序

創立二〇周年記念事業実行委員会
委員長　白幡洋三郎

本シリーズは「異邦人のまなざし」と題して、外国人から見た「日本」をテーマごとに編集し、それぞれ一書にまとめるものである。

国際日本文化研究センターでは創立以前の創設準備期から、外国人による日本旅行記や日本見聞記などを含む外国語で書かれた日本研究書の収集をおこなってきた。海外から日本はどう見られていたか、どう思われてきたかを知るための資料としてである。そして「外国語で書かれた日本研究書」を略して「外書」と名付け、この収集を国際日本文化研究センターの図書・資料収集の中心として位置付け、取り組んできた。外書は日本が海外からどう理解されてきたかを知る大事な文字資料である。

そして同時に、これら外書に掲載されている挿絵に我々は注目した。

挿絵に描かれた「日本」には、文字では表せない外国人の日本イメージが込められている。たとえ日本の絵や日本のものが利用されていたとしても、それを採用する「選択」の目の中におのずと外国人の日本イメージは現れる。そう考えて、外書の中の挿絵、すなわち「外像」を収集する作業を行ってきた。挿絵を写真撮影し、キャプションを付してデジタルデータに収め、画像のデータベース化を進めてきた。

国際日本文化研究センターが創設20周年を迎えるのを機に、こうして集められたものの中からテーマを決めて抽出した画像を編集し、順次提供してゆく。

2007年5月21日